

『筋萎縮性側索硬化症における胃瘻栄養と予後との関連性についての研究』 のお知らせ

1. 実施目的について

胃瘻栄養は、多くの筋萎縮性側索硬化症(ALS)の患者さんにおこなわれる処置であり、有効な栄養摂取方法ですが、胃瘻栄養を行うことによって呼吸不全までの期間が延長するかどうかについては、まだ明確には結果がでていないのが現状です。また、ALSの診断は典型的な症状がそろえばまず誤診はないと思われませんが、非典型的な症状や経過を示される方がおられ、本当にALSかどうかは、病理学的検査を行わないと確定できません。そこで、今回、すでに亡くなられた患者さんの中から、病理学的検査にご協力いただきALSと確定診断された方々に絞って、胃瘻栄養をおこなったかどうかと、呼吸不全までの経過の関連性について検討いたします。

2. 実施内容について

2008年から2015年末までに、当院にて亡くなられ、病理学的検討にてALSと確定診断された方35名を対象とします。生前のカルテ内容から、症状や、胃瘻栄養を行ったかどうか、発症から胃瘻造設まで、また、呼吸不全発症までの期間等をしらべてそれらの関係性を検討いたします。

カルテを実際に調べる作業を行う期間は、これより平成2019年3月末までです。

3. 研究代表者

石田 千穂(医王病院 第三診療部・神経内科 診療部長)

4. 調査対象期間

2008年から2015年末までに、当院にて亡くなられ、病理学的検査にご協力いただいたALS患者さんと、生前のカルテ内容を対象といたします。

5. 個人情報およびプライバシーの保護について

それぞれの患者さまの個人情報は、患者さま個人が特定できないデータに変換された上で、データファイルが作成、保存、分析されます。匿名化された情報と個人名を結びつける対応表は、匿名化された情報とは別の場所で適切に管理します。

この研究により、個人情報やプライバシーの漏洩や公開は生じません。

この研究の成果は、個人が特定できないデータとして、学術的な場でのみ公表します。

6. 本研究に関するお問い合わせ

上記のように、個人情報やプライバシーを保護した状態であっても、調査対象となることを拒否される場合、また、この研究についてご質問がある場合には、下記までお問い合わせください。

医王病院

神経内科 石田千穂

国立病院機構 医王病院病院長

駒井 清暢